

シリーズ：日常管理のノウハウ

第13回 平常時のうちに準備しておいて
いただきたいこと

高 椋 光 博

非密封 RI 施設は、利用が激減してしまい、厳しい状況になっています。20 年くらい前までの利用状況を知っている放射線取扱主任者の方々にとっては、心中、穏やかではないでしょう。

私事で恐縮ですが、筆者が近年経験した難事は、熊本地震、放射線施設の廃止、そして異動です。これらは、放射線取扱主任者の方々にも、いつの日かふりかかってしまうことかもしれません。そこで、この難しい時代に、主に非密封 RI 施設の放射線取扱主任者の方々に、平常時のうちに準備しておいていただきたいことをお伝えしたいと思います。

まずは、地震についてです。熊本地震は、夜間に発生したためか、RI 施設内での怪我等が発生せずすみ、不幸中の幸いでした。一方で、筆者が管理していた施設（本荘 RI）は、主に高層階の 9 階に設置されていたため、大きな物損被害を受けてしまいました。

水漏れは、非常に厄介な問題です。RI 施設内も困りますが、下の階にも影響を及ぼしてしまいます。平常時のうちに給排水に接続されたものを確認しておいた方が良いでしょう。流し台、製氷機、洗濯機、ドラフトチャンバー、純水製造装置等は、該当する可能性があります。また、フロア全体を止水する給水バルブや排水口も点検しておきましょう。

安全キャビネットやクリーンベンチは、複数台が転倒しました。固定しておかないと非常に危険です。

実験台、ドラフトチャンバー、鉛製保管庫、大型の実験機器等も動きましたので、固定を検討しておくことをお勧めいたします。

ショーケースタイプの冷蔵庫は、扉がスライドしたり、外れたりすることがあります。

次に、放射線施設の廃止についてです。廃止の際には、とにかく大量の物品を廃棄処分することに追われます。筆者の場合は、熊本地震の後に、大量の物品を廃棄処分していたのですが、そこがスタートラインであっても、非常に負担がかかりました。

きちんと汚染検査、除染を行うことは当然のことなのですが、後から何かが出てくると困りますので、気を引き締めて作業、そして確認をしていただきたいと思います。筆者の場合では、管理区域内の物品をすべて撤去して、一安心していたのですが、排水設備の防護層（漏水した場合に水を貯留槽に戻すための柵）から空のチューブ等を 2 個見つけて、ヒヤリとしました。RI 廃棄物容器に保管廃棄しましたが、そもそも RI 施設で使用されたものかどうか不明ですし、どういう経路でそんな場所にあったのかも分かりませんでした。しっかりと確認しておいて良かったところです。

地震、廃止に共通することとして、不要な物品や書類等は、平常時のうちに可能な範囲で廃棄処分しておくことをお勧めいたします。有事の際の作業量は、現存する物品量に影響されます。

最後に、私事で恐縮ですが、最近、筆者は、動物施設に異動となり、異業種に転身しました。廃止の後に始めた照射装置の管理を継続しているため、放射線管理から完全に離れたわけではないものの、大きく生業を変えたこととなります。当初は、色々な戸惑いがありましたが、施設管理や飼育管理によって、動物の状態を適切にコントロールしており、放射線管理と共通した土壤が感じられるようになってきました。放射線取扱主任者の仕事を一生懸命やっていたら、転身しても応用が利くこともあります。

平常時のうちに心の準備をしておいて、転身する場合には、早く、新しい仕事を楽しんでみようかなというくらいの気持ちになれると良いでしょう。

RI 施設にお勤めの放射線取扱主任者の方々には、これまでどおり、適切な放射線管理を遂行して、安全で使いやすい RI 施設にしていただくと、そして何事もなく、益々発展されることを願っています。（熊本大学 生命資源研究・支援センター 動物資源開発研究施設本館）